

【事例発表】

団体名：社会福祉法人 日本国際社会事業団(ISSJ)



日本国際社会事業団（ISSJ）は、人々が国境を越えることで生じるさまざまな福祉問題の相談に応じ、必要な福祉を得られるように支援する民間団体です。ジュネーブに本部を置く世界的な社会福祉機関である International Social Service（ISS）の日本支部としての役割も果たしています。

＜ISSJの取り組み＞

・外国とつながりのある家族の支援

日本で暮らす難民支援／子どもの国籍取得支援／面会交流

・養子縁組支援

家庭を必要とする子どもへの支援／養親希望者の支援／子どもを育てられない実親の支援／ルーツ探し

＜背景＞

国や地域を越えた人々の移動が世界レベルで加速する中で、様々な背景を持って来日する人々の数も増え続けています。日本社会で生活する外国人（外国にルーツを持つ人）が増加するに伴い、社会の多様性も増えています。しかし、複数の国や文化にまたがって暮らす人々の中には、生きづらさを抱え、孤立してしまう人も少なくありません。

ISSJ では、外国にルーツを持つ人々が、自他ともに日本社会の構成員と認められ、自信を持って生きていけるように支援しています。

＜ムスリム女性のための日本語教室＞

日本に暮らす難民支援の一環として、ISSJ では数年前より、群馬県館林市に集住するムスリム女性の生活相談に応じています。彼女たちの多くは、子どもの教育のために、また、地域でより安定的に暮らすために、日本語を習得する必要性を日々強く感じています。

しかし、文化的・宗教的背景により、男性と同じ教室での受講が求められる一般的な日本語教室への参加は難しく、さらに、幼い子どもを抱える母親は、託児環境がなければ、継続的に学習することは困難です。特定の人々が取り残されてしまうことなく、様々な背景を持つ全ての人の社会統合を促進させていくためには、それぞれのニーズに合わせて細分化された日本語教室が不可欠です。その一つの形として、ムスリム女性を対象とした、女性講師による「女性のための日本語教室」を立ち上げることになりました。

同じ課題を抱える仲間と共に、安心して学べる「女性のための日本語教室」への参加希望者は後を絶ちません。県や市の方々のご協力を得ながら、地域の中で持続可能な教室として定着していくよう、地域住民への発信も行っていきたいと考えています。

＜お問い合わせ＞

社会福祉法人 日本国際社会事業団(ISSJ)

〒133-0034

東京都文京区湯島 1-10-2 御茶の水 K&K ビル 3F

Tel:03-5840-5711 Fax:03-3868-0415

E-mail:issj@issj.org URL:www.issj.org



「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
地域日本語教育実践プログラムB

第1日目
パネル展

事業実施概要

事業名称	群馬県館林市における外国籍住民のための日本語教育及び社会統合促進事業			
地域の課題	本事業を実施している群馬県館林市には、ロヒンギャ民族をはじめとした数多くのムスリム系住民が暮らしていますが、女性の大半は十分な日本語能力を持たないために、地域社会との交流に困難を抱え、それ故、子育てや子どもの教育にも不安を抱えています。 日本語を習得して地域社会に溶け込んでいきたいという意欲を持っていますが、文化的・宗教的背景や託児環境が十分ではないことから、日本語学習の機会にアクセスできない状況が続いています。			
事業の目的	女性たちが日常生活に必要な日本語を習得することで、自分および子育てへの自信を深め、地域社会に根付き、より円滑な社会統合を実現することを目的としています。外国籍住民に限らず、地域社会全体に働きかけることで、相互理解が促進されることを目指します。			
事業内容	取組1		取組2	
	名称	女性のための日本語教室	名称	地域住民との連携へ向けたワークショップ
	目的	・女性たちが日本語を習得し、地域の一員として、社会生活や子育てをより円滑に、自信を持って営めるようになること。 ・女性たちが地域の中で居場所をみつけていくこと。	目的	・地域住民が、同じ地域に暮らす外国籍住民の現状や課題について知り、相互理解を深めること。 ・多文化共生のあり方について考えるきっかけを提供すること。
	内容	子連れで参加可能な「女性のための日本語教室」の開催	内容	①「隣に暮らすイスラム」(住民向け勉強会) ②防災ワークショップ
	対象	館林市に暮らすムスリム女性	対象	地域住民全般
	時間	1回 2時間× 63回(全 126時間)	時間	1回 2時間× 2回(全 4時間)
	人数	28名(学習者)	人数	延べ50名程度(予定)
	取組3		取組4	
	名称	日本語スピーチ大会	名称	日本語ボランティアのためのスキルアップ講座
	目的	・日本語学習の成果を発信し、地域住民に日本語教室の必要性和その意義を理解してもらうこと。	目的	・日本語ボランティアに興味がある地域住民が「生活者としての外国人」を理解し、必要な支援ができるようになるための基本的な力を身につけること。
	内容	活動報告及び、取組1参加者による日本語でのスピーチ。	内容	地域での日本語ボランティアの実践に繋がる研修会の実施。
	対象	他の取組参加者、地域住民、関係者	対象	日本語教育に携わっている(関心がある)人
	時間	1回 3時間× 1回(全 3時間)	時間	1回 3時間× 3回(全 9時間)
	人数	28名+審査員10名程度(予定)	人数	延べ30人程度(予定)
連携体制	群馬県、館林市、県内外のNGO(社会福祉法人 さぼうと21、隣接地域のNPO法人(自助組織)など)、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)、国際移住機構 (IOM) など			
成果と課題	【成果】 現在、28名の女性が、取組1「女性のための日本語教室」で大変熱心に日本語を学んでいます。開講当初は20名でしたが、市内および市外からの新規希望者が後を絶ちません。 公民館スタッフの方々や利用者の方々と、日本語でお話しようと頑張っている姿も見られ、地域住民との交流が生まれていくことが期待されます。 【課題】 持続可能な取り組みとしていくためにも、地域支援者を確保していくことが重要です。 とりわけ、学習中の未就学児(0~5歳)の保育者の確保は喫緊の課題となっています。			
参加者の皆様へ一言	開講より3か月が経過した、取組1「女性のための日本語教室」を中心に発表します。 女性(子どもを持つ母親)のための日本語教室は決して特別なニーズではありません。 ラマダン中もお休みすることなく、熱心に学ぶ女性たちの様子をぜひ聞きにいらしてください!			